

とみ おか ほう どう
富岡 芳堂

—千住大橋を材料にした木彫家—

昭和2(1927)年、千住大橋がそれまでの木橋から鉄橋へと架け替えられました。この時、千住の有志が作った「舊千住大橋銘木高野禎杭大黒天・恵比寿彫刻頒布会」からの依頼に応じて、大橋の木橋材から福神などの彫刻を彫り出したのが、千住出身の木彫家、富岡芳堂(1890~1957)でした。芳堂が彫り出した彫刻は、同会の手によって千住の人々の手に渡され、やっちゃ場の旦那衆もまた、富岡に木橋材の彫刻を依頼したのです。



▲能曲 高砂の像

富岡芳堂

土地の旧家として世々呉服商を営み居りしが、芳堂先生は幼にて芸術を好み、彫刻の大家として知られた、吉田芳明氏に師事すること数年、かの一九一五年米國サンフランシスコに於て催せる、万国博覧会には我が國産代表作品として、出品二等銀牌を受け、斯界の為鼻を高くしたのである。性 頗る温和にして、明治二十三年月二日、当千住町に忠兵衛氏の次男として生る。

〔千住総覧〕(昭和6年刊)より



▲底部に「旧千住大橋本杭材」の焼印が押されている。



▲寿老人の像



▲菩薩像